

令和6年度第5回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(長野市版子ども・子育て会議)
会議要旨

- 開催日時 令和6年9月27日(金) 午前10時から午前11時30分まで
- 開催場所 長野市役所第一庁舎5階 庁議室
- 出席委員 水口委員、渡邊委員、北村委員、深澤委員、宮下委員、高橋委員、日台委員、青木委員、田中(亜)委員、中村委員
- 欠席委員 茅野委員、塚原委員、和田委員、塚田委員、宮本委員、田中(宗)委員、松田委員
- 事務局出席者 島田こども未来部長、中村子育て家庭福祉課長、宮下保育・幼稚園課長、石坂こども総合支援センター所長、高野障害福祉課長、飽田移住推進課長、小池人権・男女共同参画課長、佐久間学校教育課長ほか
- 傍聴者 0名
- 報道機関 0社

発言者	内容
	1 開会
	2 新委員紹介
	3 副会長選出
会長	4 挨拶
事務局	5 議事 (1) 第三期長野市子ども・子育て支援事業計画の素々案について 資料1、資料2に基づき説明 《質疑応答》
委員	資料1の5ページに記載がある児童発達支援センターと47ページや55ページに事業説明が記載されている発達相談支援センターには、どのような関連性があるのか。
事務局	発達相談支援センターは相談窓口であり、児童発達支援センターと隣接している。それぞれ連携しながら障害のサービスにつなげていくことが可能である。
委員	発達相談の窓口は人によっては敷居が高く感じることもあると思う。気軽に相談に来て大丈夫、関係機関と連携を取りながら相談を受けているという文言があると良い。

発言者	内容
委員	<p>資料1の49ページ、障害児通所支援の放課後等デイサービスについては、判定を受けて利用することになるが、制限により週に数日しか使えない児童もいる。ニーズは年々増加傾向にあり、サービスを提供する事業所やスタッフ数が不足している。</p> <p>受け入れ数を増やすのが難しいのであれば、量の見込みの項目への追加や新たな事業を検討するのはいかがか。</p>
委員	<p>資料1の52ページ、災害発生時の子どもや家庭への支援について。先日の台風接近の際もそうであったが、市で把握している状況とそれぞれの地域の状況が異なる場合がある。また、保育園は簡単に休園にすることができないという側面もあり、対応を現場の個別判断に委ねざるを得ないのが現状である。</p> <p>もし市内で災害が発生した場合に、何か指針となるような考え方があるのか、今後こういった計画を作っていくのか、予定があればお聞きしたい。</p>
事務局	<p>先日の台風接近の際には、どういった状況であれば、各園で休園等を検討してほしいという内容で事前に計画した。また、各園には避難場所や避難経路について定めている安全計画があり、基本的にはそちらに沿って行動していただくことになっている。</p> <p>将来的には、各園の判断に委ねるのではなく、休園基準のようなものを明確にして、全体が対応できるようになればいい。今後も協力いただきながら検討していく。</p>
委員	<p>小一の壁について考えてほしい。子どもが園児の頃は朝一番に親が子どもを送ってから出勤できた。しかし、小学生になると、登校班ごとに集合時間を決めて登校するケースが多く、子どもを家で一人にしてしまう時間帯が生まれてしまう。毎朝の登校を負担に感じる子どもが増えているなかで、登校前や始業前の子どもの受け皿について制度の検討を行ってほしい。</p>
事務局	<p>こどもの居場所づくりをすすめるなかで、小一の壁についてご指摘のとおりと思う。放課後の居場所としては児童館、児童センターと環境が整備されつつあるが、朝の時間帯については、課題であると感じている。計画策定のなかで、小一の壁を乗り越えられるように検討を行っていく。</p>
委員	<p>国が家庭養育・里親推進を進めているなかで、長野県内でショートステイ、トワイライトステイの受け入れが増加している。市内にも、ショートステイ、トワイライトステイ専門の施設が設置されたが、リピーターの増加により、新規利用者の受け入れが難しいのが実情。今後の利用者数の予測を、多く見積もっていいのではないか。</p> <p>また、入所している子どもたちには被虐待児が多く、トラウマや愛着を抱えている子もいる。そういった子どもたちのケアを保育園・幼稚園・認定こども園にしてもらっている。子どもたちへのケアや加配について、保育園・幼稚園・認定こども園とも協議しながら、事業を検討してもらいたい。</p>

発言者	内容
事務局	<p>保育園・幼稚園として、そういった難しいお子さんの対応もしていかななくてはならない。関係各位のご意見、ご協力をいただきながら、できるところから検討をすすめていきたい。</p>
委員	<p>資料1の82ページ、ワーク・ライフ・バランスについて。保護者の職場に、子育てへの理解を示していただくことが大切。委員のご指摘どおり、登校時間前の子どもの受け皿を整備していくという考え方も重要である。一方で、早朝に出勤せざるをえない保護者に対する、職場の配慮や雰囲気づくりも必要である。</p> <p>子育てを応援する企業に対する指標や認定など、もう一步踏み込んだ後押しを行ってほしい。</p>
事務局	<p>ワーク・ライフ・バランスは重要な考え方である。働き方も多様化しているなかで、最適なところを見つけていくのは非常に難しい作業だが、委員からの意見も踏まえて企業等に働きかけていく。</p>
委員	<p>49ページにインクルーシブ教育の充実とあるが、大学生、高校生の自身の子どもたちに話を聞いても支援学級の子と関わった記憶はほとんどないとのことだった。多様性を育むというのであれば、教育部門や先生の採用にもっと予算をかけてほしい。</p>
事務局	<p>現状、いわゆる発達障害の診断を受けている子は特別支援学校又は特別支援学級に在籍している。特別支援学級の場合、どの授業をみんなと一緒に受けるのかを、支援会議で個別に決定しており、それぞれの子どもによって異なる。</p> <p>診断の有無に関わらず、通常学級において特別な支援が必要と思われる子が、35人学級だと3～4人いるという試算がある。発達特性の子も通常学級に在籍することが既に一般的なことになりつつある。そのような状況を通常学級の担任がどう捉えて、どう支援を行っていくかが重要である。教員養成課程にも改善の余地があると思っている。</p> <p>特別支援学級や教育現場について、ご指摘いただいた内容も含め今後も検討していく。</p>
事務局	<p>欠席の委員からの意見紹介</p> <p>「保育園・幼稚園が感染症に対して過度の対応していることを多く経験します。今年流行した手足口病については、小児科学会では、元気で熱がなく、口の痛みがなければ、登園は可能としています。厚労省の保育所における対策ガイドラインでも、発熱がなく普段の食事ができることが登園の基準とされており、手足に発疹を見つけただけで、親に連絡して、帰宅を指示する必要はないと考えます。</p> <p>働いている保護者たちが子どもを育てていく中で、本当に必要な子どもたちが病児保育を受けるためにも、保育園・幼稚園が適切な対応していただけることを要望したいと考えます。」</p>

発言者	内容
事務局	感染症等の対応については、計画の中ではなく、運用の中で考えて対応していくものと考えている。現場の声や保健所とも相談連携しながら、感染状況にも応じた対応を考えていく。
事務局	第三期計画では、教育保育の提供区域の見直しを検討している。次回以降の会議で、見直し案を提示させていただき、委員の皆様のご意見をお聞きしたいと思っている。
事務局	(2) その他 子どもの権利に関わる条例について情報共有 《質疑応答》 なし
事務局	6 その他 第5回ながの子ども・子育てフェスティバル開催の告知
	7 閉会